

## 足尾地域まちづくり懇話会“あしお茶論”

日 時：令和元年6月23日（日）10:00～

場 所：足尾庁舎

テーマ：市長講話に基づく意見交換

- 次 第：1 開会  
2 日光市の歌（斉唱）  
3 市長講話  
4 意見交換  
5 その他  
6 閉会

### 《意見交換内容》

**参加者** 今、市長のお話しを伺いまして、これまでやはり財政難ということばかりがいつも頭にありましたが、いくらか安心しました。この中に税金だけではなくて他の財源も求めると書いてありました。いろいろなお知恵で、いろいろなところからも税金を増やすということがよくわかりまして、少しほっとしたような感じがいたします。

足尾は、今まで銅山で栄えた町なのですが、これからはやはり観光しかないと思うのです。お客様は、とにかく大事にしたいなと思います。私たちがあそこでサロンを開いたのは、そういう訳で開いたわけではないのですが、市のほうから、お客さんの案内などもしていただけたらと言われたものですから、お客さんは大切にしようということでやっております。

足尾にわたらせ溪谷鐵道で来まして、日光にバスで行かれるお客さんというのは結構います。待ち時間があるので、あそこで休んでいただいたりしています。こういうことを考えてほしいなと思ったのは、名指しになってしまいますが、かじか荘のお客さんが私の知り合いで9人ほど来てくれたのですが、11時台が最初の日光行きで、日光に行きたいというのですが、かじか荘では通洞駅へ9時に送ってきているのです。そうすると、日光行きのバスを2時間待たなくてはなりません。だから、わたらせ溪谷鐵道で帰るといった話になったのです。でも、せっかく日光にまわる予定でいるのだから、私たちはサロンを開ける日ではなかったのですけれども、9時に開けておくから2時間あそこで休んでくださいと。そしてお茶を入れて、休んでもらって日光へまわってもらいました。それはとても感謝されました。日光の食べるところを紹介したりして、それから日光を見学して栃木に帰りました。

かじか荘もそういうお客様がいたら、融通をきかせていただいて、バスの時間に間に合うように送ってもらえたら、ありがたいなと思ったところです。以上です。

**観光経済部長** 今、初めてそのお話しをお聞きしました。送迎につきましては、バスの時間に合せて送るとするのは、たぶんおもてなしの1つだと思います。その辺につきましては、かじか荘のほうと調整をさせていただきたいと思います。

**参加者** 私のほうから2点ほどお伺いしたいと思います。当地区は高齢化集落等、日常生活交通支援事業で、タクシー券を内の籠と南部地区で、今、事業を展開されていますが、この事業等を今後とも持続

できるのかということで、市民の方が不安がられています。市長のほうから財政、財政ということをお願いしたものですから、その辺を聞きたいと思います。

もう1点は、防犯カメラのことですが、世間は防犯カメラ等で、犯罪や事件等をカメラにより成果を上げていると思います。当地区も防犯カメラというのは、それなりに反響があるのだなと認識をしたものですから、一応、足尾町の防犯カメラの状況と、今後の市の防犯カメラの設置とかそういう認識とか、ご意見をいただければありがたいなと思います。

**市民環境部長** 南部地区の唐風呂や餅ヶ瀬の案件でございます。300円から600円、年間96枚交付されていると思いますけれども、条件につきましては、市営バスの運行路線外ですとか、最寄りのバス停までの距離が1km以上の地区ということで、あくまでもバス路線外になってしまうところに対する補助でございます。これにつきましては私どものほうでも、毎年、予算の要求をしているところでございますので、継続的に要求をしていきたいなと思います。

**副市長** 唐風呂線が廃止になったという、その代替手段としてスタートした制度でして、必ずしも高齢者の方に優遇しようということが、本来のもともとのスタートではなかったのです。それを言ってしまうと、他の地域もそういった交通環境が悪いところがあるのですけれども、足尾に関しては、そこが特別な理由だったので、現状においてもそれを変更するという予定は今のところございません。

ただ、全体の交通体系として、これからやはり見直しをしていかなければならない中で、また新たな模索、検討も必要となってきている状況なので、その辺を含めて今後の検討ということになると思いますので、よろしくお願ひしたいなと思います。

**市民環境部長** 防犯カメラでございますけれども、日光市の防犯カメラの状況を説明いたしますと、市で設置しているものとしましては、駅前広場としまして、JR今市、日光、下野大沢、それから東武下今市駅と鬼怒川温泉等、全部で7台の防犯カメラ設置しております。それから小中学校におきまして、全部で74台の防犯カメラを設置しておりますし、自転車の市営駐車場等につきましても59台、全部で140台の防犯カメラがついております。

また、自治会におきまして、防犯カメラの設置のための補助金がございます、それにつきましても、平成30年まで5自治会、1団体で46台の防犯カメラが日光市に設置されている状況でございます。自治会で設置の補助金の申請をしていただければ、設置ができるということで理解いただければと思います。

私どもが掘っている範囲内におきまして、足尾地区につきましては、防犯カメラは設置していないという状況でございます。自治会等から要望があれば設置の補助金は用意してありますので、設置をしていきたいと思っております。設置の補助金ですが、補助対象経費の4分の3で35万円を限度として交付をしております。

**健康福祉部長** 健康福祉部の所管施設の防犯カメラについて申し上げますと、公立保育園の足尾認定こども園には、平成29年度に防犯カメラの設置をいたしまして、園庭であるとか、出入り口の監視を実施しているというところであります。公立保育園については、足尾地域だけではなくて、全部で15施設あ

りますが、休園を除くと13園となります。そのうち11園に防犯カメラを設置しており、あとの2園については見通しが良いという部分もあり設置しておりませんが、ほぼ防犯カメラを設置しているという状況でございます。

**教育次長** 小中学校につきましては、平成27年度から1校あたり2台ずつ防犯カメラを設置しております。もちろん足尾小学校、足尾中学校にも設置済みでございます。

**参加者** ふるさと納税というのは、日光市はやってないのですか。

**企画総務部長** 日光市のほうでは、ふるさと応援寄附金というかたちでやっています。今、国のほうで返礼品を多くしすぎてはいけないというようなことがあって、泉佐野市等と言われてはいますが、日光市の場合は基準をきちんと守ってやっています。当初は1億円を超える寄附があったところなのですが、今現在は7,000万円を切るぐらいの納税額があります。

ただ、そのうち返礼品として出す額もありますし、送料等、それから、日光の市民が他に納税する場合はそこで減税になってしまいますので、差引算ですが、まだ平成30年度は出ていないのですが、平成29年度でいきますと、2,000万円ぐらいの黒字というような状況となっています。平成30年度については若干減るかなというような状況です。

**足尾行政センター所長** 用途、使い道がいろいろあるのですが、足尾行政センターに直接お持ちになる方がいらっしゃいます。そういったものは、そこで記入していただきますが、そのときに何を目的とされますかという、ここに持って来る方は足尾地域の振興のために使ってくださいということで、決して誘導はしていないのですが、足尾地域振興のために使うこともありますので、申し添えたいと思います。

**参加者** 昨日の話ですが、主人が双愛病院にリハビリに通っているのですが、朝、お迎えに来てもらっています。元の神子内小学校の前に停留所がありますが、そこに男の人が座っていたそうです。11時すぎに帰って来たのですが、まだそこに座っていたのです。不審者が多いので、一応警察に電話を入れて、警察の方がすぐ見に来てくれたら、先ほどのお話のように、日光に行くバスがなくて3時間待っていたそうです。バス停のコンクリートの土台みたいなところに座って待っていたということだったので、警察の方はバスに乗るのも見て、大丈夫ですと家まで来てくれたのです。

やはり不便は不便です。神子内地区は何もないところなのです。かんもサロンのように休んでもらえるところがあるのならいいのですが、コンビニに3時間も待っているわけにもいかないでしょうし、雨でもなく暑くもなかったのですが、3時間とはいえ大変だったろうとは思いました。バスを変更しようとしても、なかなかバスの時間も変更はできないと思いますが、何か対策はないのかなと思いました。

あと、主人がリハビリ通うようになってから、障がい者の手続きとか、福祉に関するものに、勉強不足だった私も悪いですが、難しいというのが1番の思いでした。何に対して補助を受けられるのかというのわからず、行政センターのほうで、最初から聞いてもすぐ忘れてしまうのですが、「また手続きをするのに来ないとだめですね。」とか、「このサービスを受けるのには、ここを通さなければだめ

ですね。」とか、介護支援と要介護とで受ける支援が違うのも、やっとわかってきたような状態で、もう少しスムーズに簡単に分かるようになってくれたらありがたいなと思いました。以上です。

**市民環境部長** わたらせ渓谷鐵道を使ってお越しになる方などが、日光地域の東照宮とか見たいので、バスの時間等々について問い合わせをしてくるケースが結構ございます。確かに時間帯を見ますと、通洞駅が7時半で、その後、日光へ行くのが11時までないという状態があります。

今、おっしゃいましたようにバス時間の変更も、これをつくったときもいろいろ状況を考慮してつくったものですので、大変難しいところではございますけども、こういったように3時間待つとか、そういった状況を聞きますと、この辺についても、対策を考えていく必要があるのかなというふうに思っておりますので、今後、勉強していきたいと思っております。

**健康福祉部長** 2点目の障がい者の手続き等についてですが、介護保険のサービスを使うのか、障がい者のサービスを使うのか、これによって使うサービスの種類であるとか、手続きというのが変わってきます。例えば介護保険ですと、身近な相談という、ケアマネージャーであるとか、包括支援センターのほうにご相談いただいて、その方の状態に合わせて、必要な手続きであるとか、利用についてはケアプランをつくって、それに添ったかたちでサービスを利用することになります。障がい者サービスについては、障がい者の相談支援員というのがありますので、相談支援員にご相談いただくということで、いろいろな手続きであるとか、サービスの利用であるとかをご相談いただけます。

サービスの種類とか、いろいろな手続きがありますので、それを一つひとつ、一人でやるというのは、なかなか難しいという状況がございます。したがって、そういった相談支援員やケアマネージャーにご相談いただき、そこから、必要な助言なり、支援を受けるなどご活用ください。

**観光経済部長** バスの待ち時間の話ですが、今現在、みどり市におきまして、みどり市と日光市をつなぐパンフレットを毎年作っていただいている、これはみどり市が負担しています。英語バージョンもあり、2種類きれいなものがあります。3時間あれば、みどり市で1回降りていただいて観光して、その後また来るというプランもあるので、そういったところで今回、みどり市のほうにお願いしまして、みどり市で観光をして、例えば足尾でもう1カ所降りて、そこで観光する、その3時間の待ち時間を有効に使っていただくようなパンフレットを作っていただければ、お客さんはそれを使って散策をしますので、みどり市とお会いできる機会があれば提案させていただきます。

せっかくきれいなパンフレットをつくっていただいているし、降りていただければと思います。例えば、日光としては足尾の2カ所くらい駅で降りていただいて、散策していただければ一番いいのだと思います。今回、栃木DCがございまして、いろいろなところを紹介できるというところもありましたので、市のほうで考えさせていただいて、有効な滞在時間、どういうふうにしたら時間を有効に使っていただけるかというのを勉強させていただいて、市のほうも足尾での短時間での楽しみ方というのを何らかのかたちでつくれば、長時間座っていることなく足尾を楽しんでいただいたり、みどり市を楽しんでいただけるという部分がかなりあると思いますので、そこは研究させていただきたいと思います。

**参加者** もう1つだけお聞きします。集会所について期限は決めているのですか。

**地域振興部長** 集会所の関係ですが、自治会とかコミュニティというような部分は、私どものほうで所管しております。先日、足尾地域の自治会長会のほうにも全体の説明をさせていただきました。集会所の場合は、足尾だけでなく、それ以外の地域も含めて、それぞれ地域性に基づいた財源を使ったり、地域の状況に応じたかたちで自前でつくっているところもありますし、この足尾のように様々な事業とか、元々の古河関係も含めて活用していただいているものとか、公共でつくったものもあります。

ただ、全体の施策の流れとして、先ほど市長の話にもありましたマネジメント、なるべく公共施設は少しでも減らしていきましょうという流れの中で、この集会所についても、もし地域で引き受けていただけたところがあれば、地元の地域に引き受けていただきたいですし、それが難しいとしても、少しでも数を減らしていきたいという方向性があるって、地元にお話しをさせていただいたところがございます。この足尾地域については、特に高齢化が一番著しいところですし、自治会の運営自体もなかなかままならないという状況でございますので、そういったような実情を勘案させていただいて、ある程度の期間をとって、地元でご検討していただくという期間を設定したのが5年間です。最長5年間ということで、その5年間のうちには、そもそも引き受けられるのかとか、今の集会所がどうしても必要かどうかということも含めて、地域で検討していただいて、その上で方向性を出していただくような調整を、行政センターが中心となってやっていきたいと思いますというお話しを、まずさせていただいたということです。

早いうちにある程度の方向性が決まれば、それに越したことはないのですが、慌てて今年度までにと、何月までに決めてくれとかというお話ではないので、その辺は地域の実情をふまえて、お話し合いさせていただければと思います。よろしくお願いします。

**参加者** 私は南部地区ですけど、ここに自治会長が3人おられるので、そういう話が出ました。南部地区は学区で地域が分かれて、切幹、原、唐風呂、餅ヶ瀬の4つが南部地区ということです。その中で切幹14件、原は33件、唐風呂は14件、餅ヶ瀬は8件です。原が一番多いものですから、原のところに持ってこられると、原で引き受けるにしても譲渡されてもお金がかかるわけです。そういう面では4つの自治会で話し合いをしながらという考えもありますが、足尾町は山に囲まれていて、そんなに避難場所がないのです。南部地区では、原の集会所が避難所になっているので、これはどうしても最後には残さなくてはならないかなという感じがあるので、今も自治会ではいろいろ考えています。

**副市長** 足尾地域も栗山地域も、地域としますと過疎地域という指定がされているところです。歴史的な経緯もありますし、隆盛の時期もありました。ただ、今は非常に人口も減って、高齢化率も高くなってきているという現状もあり、1つの自治会で集会所とかを抱えながら、今後、運営をしていくということがだんだん厳しくなるだろうなということが前提で、今回ご提案をさせていただいたりしているわけですが、やみくもに集会所を例えば譲渡しようとかということではなくて、例えばコミュニティを維持していくためには、隣の自治会と力を合わせて合併してみようとか、そういったことが前提にあつての話というふうに思います。

先ほど原が避難所ということもありましたが、自治会同士の距離間の問題もあるので、もし可能であれば、近いところ同士で連携というか、結びあったほうがいいのかないところがあれば、そこはそういった協議の上で、まとまることもできるのかなと思います。栗山地域ですと、同じ過疎地域といいながら、ぜんぜん環境が違って、そういった集落ごとの距離間がものすごくあるので、お隣同士と手を

結ぼうといっても、なかなか物理的に難しいという環境があります。ただ、足尾地域に限っては、比較的、地域としては一定エリアの中でまとまっているという環境もあるので、もし可能であれば、そんなこともご検討いただければと思っているところです。

**参加者** 私は民生委員のほうから、この会に参加させていただいておりますので、民生委員の改選時における推薦について、お願いしたいことがあります。

民生委員は常に住民の立場に立って相談に応じ、社会福祉協議会等の関連機関と連携を図りながら、援助が必要な方々に福祉全般に渡って、相談や援助を行っています。今、地域共生社会の実現が求められておりますが、地域や行政など関連機関をつなぐ、また、今後の地域福祉を支える重要な役割を担っていると、活動を通じて感じております。民生委員に限られた問題ではありませんが、人口減少や高齢化などにより、地域の担い手が不足しています。つまり、民生委員のなり手がいないという危機に直面しています。今年度も3年に一度の改選の時期にあたりますが、なり手不足の問題は多くの自治会で頭を抱える問題であり、さらにその先の改選のことを考えると、より深刻な問題になるのではと思っています。

先日、自治会長会と民生委員との懇談会に出席させていただきましたが、後任の方が見つからない、自治会長自身も地域によっては交代制で行っているため、担える人材を探すのが難しく、お願いしても断られる、大変ご苦労されていると聞きました。そこで、選出方法について、旧足尾町時代のように地域の人材を良く知っている行政からの依頼により、選出する方法をご提案したいと思います。

日光市は広範囲な地域であり地域性も様々なので、特に人口が少なく地域資源も少ない中山間地域の足尾みたいなどころでは、何よりも行政のサポートがかかせません。民生委員が空席の地域においては、市長が、ここに掲げている高齢者や障がいのある人が、笑顔で健やかに過ごすことができるよう福祉の充実を推進とありますが、民生委員がいない地域が日光市には3地区あります。そういうところの方は相談や何かをできないと言っておかしいですが、行き届かないと思います。それなので、全市統一のルールではなくて、その地域性に応じた選出方法をご検討いただければと思っております。とにかく、担い手がいないというのが現状で、高齢化が進んでおりますので、民生委員に対して足尾町は危惧されることだと思えます。

もう1点は、足尾町の場合は相談事を窓口を持って行きますと、その課でなければ、他の課の係の方を窓口と呼んでいただいて、その課の方からアドバイスを頂くことがその場でできます。他の地区の民生委員のお話を伺いますと、本庁のほうに行って、こういう用件で来ましたというと、これはこの課ではないから、他の課に行ってくださいと言って、課を回されたりすることがあるそうです。それで他の課に移るとまた同じことを最初から説明して、それが二転三転する場合もあるというお話を伺いました。

例えば、自分の要件を書いて、総合相談みたいなどころで、これは何課ですと教えていただければ、そこに行って必要な部分の説明だけをすればいいということで、相談に行く方も、同じことを重複しないでアドバイスがいただけると思うので、その辺の相談窓口の方法も検討していただきたいと思えます。

**健康福祉部長** 今年度、民生委員の改選がありますが、民生委員のなり手不足というのは、なかなか大きな問題でありまして、民生委員を推薦できないという地域が、現在4地区ある状況です。

今のやり方は、自治会長の皆さんに選出、推薦をいただいて、推薦をいただいた方に関しまして、民生委員の推薦会で協議しまして、県に報告をして国が任命をするというような手続きの流れとなります。現在、民生委員がいない地域については、自治会長にお話しをさせていただいておりますが、なかなか候補者が見つからないということで、全地域に民生委員が配置できる状態ではないということは、事実としてあります。

ご提案の、市のほうで把握している方を推薦できないかというお話であります。今年度の改選にあたりましては、なかなかそこまでの対応は難しいのかなというような状況でございます。今後、民生委員の確保については、対応策の検討が必要であると思っております。例えば、民生委員のなり手不足の中には、民生委員の負担が大きいので、負担の軽減というのが必要なのではないかというような話が出てきております。民生委員に、いろいろなことをお願いしているところもありますので、その辺の負担軽減を図れないかを検討していきたいと考えているところであります。

一方で、行政の方で適任となる人材を推薦するというのは、なかなか現状においては難しいことから、今後、民生委員の確保対策を協議していく中で、検討させていただきたいと考えております。

また、相談ごとなどのお話ですが、例えば、包括支援センターについては、社会福祉協議会に、日光・足尾地域包括支援業務を委託しているところであります。その中で、足尾地域には、日光から距離もあることから、相談員を配置しているというところであります。その包括支援センターの窓口としての相談員、そこを通じていろいろなご相談をいただいて、必要なところに繋いでいくというような対応をしているところであります。

民生委員の相談ごとは多々ありまして、それを一本化というお話もあると思いますが、地域の困りごととか、困っている方がいらっしゃるとか、何らかの支援が必要な方というのは、今現在の窓口を通じてご相談いただくかたちになると思いますが、それ以外の全てを一本化するというのは現状では難しいところがございます。今後どうしていくかというのは、足尾地域だけではなくて、全体的な話に通じる部分もございますので、福祉部門だけで話を通じることかどうかということも含めまして、検討が必要だと思います。

**参加者** 足尾地域は、全部それがフルにまわっています。行政も包括も全部フルに動いていただいているので、足尾は大丈夫です。他はそういうお話しを、連合会の総会や何かでお伺いしたものですから、今日の意見で出させていただきました。

**副市長** 各地域の行政センターも他にありますので、今、ご指摘いただいたことについては、行政センターの総合的な調整の中で話をしていきたいと思っております。本庁舎については、建て替えをさせていただいたところに総合案内があるため1カ所であれば誘導で済みますが、複数に跨る場合は難しい場合も出てきます。市民課は全体的な窓口としての機能もあるので、もし、足が不自由な方がいらっしゃったときには、その辺は臨機応変に柔軟に対応させていただくような体制をとっていただければと思います。

**参加者** 自分たちがやっていることで申し訳ないのですが、重点項目の中に、住民主体の集いの場の設置を支援するとなっておりますが、私たちは、昨年開いたかかもサロンですが、高齢者集いの場の支援ということで、昨年と今年は社会福祉協議会から、補助金をいただいてやっております。あその場所は

市の施設ですから、無料でお借りしていますが、どうしてもボランティアだけでやっているものですから、あそこの水道代と電気代は稼ぎ出さなくてはならないということで、パンなどを自分たちで買って、それで半年間の光熱水費を出しています。11月もお客さんが見えるからやりたいと思いますが、灯油代がかかるから諦めました。

来年からは社会福祉協議会のほうの補助金がなくなります。光熱水費で言いますと、だいたい半年間で15,000円です。それを今、自分たちで捻出しているのですが、そういうところにも補助をいただけたらありがたいなと思います。

**市長** ここに書いた住民主体の集えるサロン設置を支援する補助金制度の構築は、選挙のときに公約に掲げた内容です。すでにオアシス支援事業とかは別格で、本格的にいろいろやっていますが、高齢者がいろいろなところ集って活動しているというのは、今でも公民館とか、市の集会所とかに月1回集まっているとかあります。いろいろなかたちがいっぱいあるので、制度としてどういうふうに構築したらいいのかなという部分と、財源の部分とにらめっこしながら、今、いろいろと検討している最中です。すぐに答えが出せないのですけれども、まずは庁内でも議論を少し早めて進化させていきたいなと思っています。

私もかんもサロンのところはお邪魔をさせてもらったこともありますが、皆さんが集まってわいわい楽しくやっているのが一番のメインの目的ではなくて、観光で来る皆さんに道案内をしたり、場所を提供していただいているということでもありますから、補助金がきれた後に関しては、少し時間をいただいて内部で検討させていただきたいと思っています。非常にいい取り組みだし、ある意味ありがたいなと思って感謝している部分もあります。

**参加者** 副市長からは、古い庁舎から使えるものは持って行って使ってくださいというお言葉をいただいていますので、ありがとうございます。なるべく自分たちだけでやろうという体制でやっておりますので、意見として出させていただきました。

**参加者** 私は更生保護のほうから出ているのですが、民生委員もやっておりますので、民生委員のほうから検討してほしい事項があります。私は民生委員でも、主任児童委員と違って、仕事は民生委員ほど大変ではないのですが、見ていて民生委員は大変だなと思うのは、高齢者の実態調査です。日光市の民生委員は、どなたでも同じだと思いますが、一軒一軒お宅にお伺いして、その家の実情を把握するのですけれども、何とか行政の方と民生委員の方で共有できないものでしょうか。個人情報とかで、非常に開示が難しいのです。

民生委員の負担というのは、すごく大きいと思うので、これを諮っていただきたいと思います。それに加えて、引きこもりの調査も、自治会長と行政、民生委員の共有を、ご検討いただきたいと思います。

**健康福祉部長** 民生委員に一番お願いすることは、いわゆる情報のつなぎ役というのが一番重要と考えています。まず、地域でどんな方がいらっしゃるって、例えば、その方は支援が必要な方なのか、その辺の情報を行政に上げていただくことが必要となります。行政も、情報がなければ動けないという部分がございますので、その情報をいかに伝えていただけるかということが、一番重要だと考えております。



その中で、実態調査の負担というお話しをいただいたところでございますけれども、地域の状況を知っていただくという意味では、必要かなと思っているのですが、負担軽減の部分で、こういった対応ができるかどうかというのは、検討させていただきたいと思います。

引きこもりについては、日光市でも大きな問題でございまして、引きこもりの方が、どこにどういう状態でいらっしゃるかという情報、やはり把握というのは、なかなか難しいという状況でございます。把握ができる場合には、引きこもり相談支援センターがございまして、そちらのほうで対応していくというかたちになるのですが、まず、早期発見をして、早期相談に繋げていただくという部分については、情報をいただくという意味では、ご協力いただければありがたいところでございます。

例えば就学児童の場合ですと、学校との関わりがございまして、そういったところから情報がいただけるということがありますが、社会に出た方ですと、なかなか把握というのが難しくなります。やはり地域の方の情報というのが大変重要でございまして、その中で見守りをお願いしている民生委員を通じて、そういった情報をいただけるよう地域の皆様方のご協力を今後ともお願いできればと考えております。

**参加者** 市長が言われる継承と改革で、強くやさしい、人が輝く日光づくり、私たちは市長ほどの深い考え方には届きませんが、現在取り組んでいることとお話しして、要望を何点か申し上げたいと思います。

1つ目は、災害に強いまちづくりとして町内各地での避難訓練、自主防災会による防災マップづくり、補助事業による防災機器の装備等に努め、災害に強いまちづくりを行っています。防災マップには、障がい者支援、初期避難場所等を色分けし、誰でもいつでも見られるようにマップを集会所に掲げております。また、集会所では、自治会と老人会でタイアップをし、毎週日曜日は貯筋アップ体操や、カラオケ等で楽しんでおります。今、足尾町にとって、いかに集会所が重要な位置を占めているかということを申し上げました。

2つ目は、足尾の歴史にはたくさんものがありますが、その中でも、納涼祭・足尾まつりは、古河鉱業時代から続いてきましたが、会社の都合で廃止、その後、町民が立ち上げ今日に至っています。町外に出ていった多くの人たちが、懐かしがって見に来てくれております。観光客も一緒になって声をかけてくれています。しかし、その中身は市の補助金が大きな比率を占めています。このときばかりは、子供もお年寄りも一丸となって、はりきって参加しています。今後とも継続のほどをお願いしたいと思います。

3つ目は、まちづくりの補助金を有効に使い、観光面では銅山観光のメイン通りを、花いっぱいでおもてなしを行っています。さらに銅山観光やわたらせ渓谷鐵道のお客さん用に、食堂や道路を明示した看板を掲げました。また、足尾まちなか写真館の看板を、3年間で28個ほど作成し、銅山の町として後世に伝えるため、また、観光客用として掲げ、今は立ち止まって眺めている人が多く見受けられています。さらに、銅山観光や通洞駅のトイレ改修を行っています。まだまだ汚く傷んでいるところが多く、修理の継続をお願いしたいと思います。おかげさまで足尾町は全体的に、明日への確かな一歩が進んでいると見受けられます。

**副市長** 真摯に受け止めさせていただきまして、検討したいと思います。

**参加者** 施政方針を読ませていただいて感じたこと、要望がございます。

今年度の施政方針は、日光市の現状において、よく理解できるものだと思っています。子育て支援は先進的だと思っていますし、高齢者支援も広い日光においての車社会の現状をいち早く察知した、プロパイロット搭載の最新の車購入・導入等、いろいろ支援をされていることにベターではないかと思っています。

観光経済部が1つになったということは、やはり集合体があって、観光だけでは成り立たないそういう商業、農業の全てが、コアで重なる部分、これが横の連携でやっていくのだなというふうに、私は理解したのですが、観光の会議とか出ますと、観光が手薄になっているのではないかという懸念の声もあるのは確かなので、この辺はどうでしょうか。

ここで私が提案させていただくのが重要課題として、同じプラットホームに交通体系も組み入れた、観光経済部であってほしいと願っています。市長が掲げた一つに、日光総合会館の在り方、活用を含めた門前日光の交通体系、これは足尾に住むものではなく、門前日光に出向いて足尾のお客様を届ける立場としては、交通が滞っている状態というのは、とても億劫になります。私たちも門前の中に入らず、高速を通過して、今市や宇都宮に行ってしまう。日光市からわたらせ渓谷鐵道への補助金がだいぶ出ていますので、先日、テレビ朝日の帰れマンデーで、白い巨塔のメンバーがわたらせ渓谷鐵道に乗って、奥日光の温泉寺まで行くという放映がありまして、かなりの反響がありました。これについては、今、生活安全課の職員がフェイスブックでもアップされていましたけれども、わたらせ渓谷鐵道を降りて、バスで日光へ行くアクセスの問い合わせがかなりあって、それもアップしてくれていました。そういうところで、清滝という場所も紹介していただいて、そこから奥日光まで行けると。

逆に言えば、わたらせ渓谷鐵道のお客様を、足尾から奥日光まで行ける、ただ、そのまま門前日光へ行くのではなくて、奥日光まで行けるという可能性を、この番組は伝えてくれました。そういうことで、私たちもそういう情報の共有を、私たち住民自身も、もっとしていかななくてはならないかなと思いました。

そこで観光協会サイトのリンクについてなのですが、私は個人的にマップをつくっている関係でも、個人的に観光協会の会員になっています。足尾の主な団体も観光協会に会費を払っています。全体の大きな予算の中では、足尾から出ている会費というのは、ほんとに僅かだと思うのですが、足尾の観光というサイトを私はつくりましたが、それをリンクさせていただくようなことを、市のほうから観光協会へなげかけていただけるということができるのであれば、お願いしたいなと思っています。観光推進協議会等があると思いますが、その中にDMOが関わっていて、東武トップツアーズも入っているというのは、すごく魅力的な団体になっているので、国土交通省とか観光庁、経済産業省というところから、市長がいかに補助金を引き出す算段をしていただけると、ありがたいなというふうに思っています。

ここにいる皆さんにもお願いなのですが、先ほどお話があったとおり、今までまちづくり検討委員会の中で、観光の看板をつくったり、まちなか写真館をつくったり、わたらせ渓谷鐵道で来たお客様が歩いていただける、それで日光へお客様を流していくというようなことを、かかもサロンでもやっていますけれども、やはり私たち皆が、足尾は今、どういうふうな観光をやっているというようなことを、情報を取り入れる算段をして、皆で共有をして、まちづくり検討委員会の中で各団体の代表が出ているので、とても大切な委員会ではないのかなと思っています。皆でその情報を共有して、足尾を盛り上げていただけたら、わたらせ渓谷鐵道の乗車率も多くなるのではないかなと思っています。

もう1つ、これは観光ではないのですが、予算を見ていて感じたのですが、足尾のゼブラクラブなのですが、今、施設が駄目で、こども園のほうに設計費の計上があったと思いますが、部外者として懸念するのは、子ども園に施設が行ってしまうと、子供たちが校庭で遊ぶ際に、目が届かなくなるかなというのは思っています。その辺で、現場の声を聞いて設計とか入られているのか懸念しました。

もう1つは、行政経営で、ペーパーレス会議システムは、大賛成なのです。議会のほうは、これを適応されますか。されなければ議会のほうも、していく方向でお願いしたいと思えます。

**観光経済部長** 今回の機構改革で観光と商工と農林が一緒になって、観光が薄くなるのではないかというお話ですが、観光がなくなるわけではなく、基本的に観光は観光でそのまま存続しております。市長からもお話がありました、今日、東武鉄道のSLの中で、リンドウを配っています。こういったことは、今までなかなかすぐにできなかったのです。

市長のほうにリンドウができましたと来庁されたときに、農協さんのほうで、実はNHKに出たい、テレビに映りたい、宣伝したいですというお話がありました。今まではそれが農林サイドだけだったので、その場で終わってしまったのです。そこからNHKにどうやって繋いでいくかと、農林サイドではわかりませんでした。今回、観光のほうで繋いで、NHKに電話をして局長にお会いして、6月中に一回、NHKのほうで宣伝をさせていただきました。今回、東武鉄道でもやりたいということで、SLのほうで配るようです。来週になりますけれども、おかみの会にもリンドウをお配りして、新たな販路ということで、リンドウを旅館やホテルに卸していただくといったことが、今回できるようになりました。それも1つの成果だというふうに思っています。

そうしたことで、今あるものを使いながら観光に活かしていく、あるいは、これを東京に持って行って、観光の部門で宣伝をしていくといったことが非常にやりやすくなります。また、友好都市等に行くと、色々なお祭りとかイベントの中でも、商工課が物産を持って行って日光をPRする等、色々なことで連携ができるようになって、横の連携というのが今、非常にいいというところで、それも取り組んでいるところですので、決して観光が薄くなるということはありません。

先ほど交通機関等も加えたほうがいいのかとのことでしたが、日光市は栃木県の4分の1を占めており、足尾だけではなくて、栗山や藤原地域の三依地区もあり、非常に大きなところなので、合併当初からの課題というふうに認識しています。2次交通というのは、栃木県DCもありましたが、これはどこの地域でも課題だというふうに捉えております。交通も加えるかどうかというのは、いずれにしましても、そういったものを今後どうやってつくっていったら、各地域にお客様を周遊させるかは、永久に課題なのだと思います。

足尾に3時間いられる方がいらっしゃるということであれば、日光に送るのではなくて、足尾の中でお金をおとしてもらう、そういったことを考えていかなければならないと。要は日光に送るだけではなくて、いかにその方たちに、足尾にお金を落してもらえるか、例えば、足尾に来てコロッケを食べて、あんこ玉を食べて、銅山観光を見ても、3時間かからないからどうしましょう、そういうときにサロンに1時間いて、サロンでガイドをしましょうとか、そんなプランを使っただけで、いかに足尾にお金を落していただくかも考えていくのが、1つかなというふうに思っています。

協会サイトのリンクなのですが、これはあくまでも民間ですので、市のほうからお願いするのは規約とかがあり難しいので、それは直接、協会のほうにお願いしていただくのがいいのかなと思っています。

それは有料なのか無料なのか、協会は一般社団法人ですので、市が直接、例えば個人のサイトだけをつないでくれというのはなかなか難しいです。

例えば、私もサイトがあるからという話になってしまうので、なかなか難しいのです。そこら辺については、観光協会の考え方もありますし、そのリンクの貼り方というのも規定があると思います。そういったことで、市が足尾を紹介するいいサイトだからといっても、みんな平等にやらなくてはいけないということがありますので、そこは難しいのかなと思います。DMOについては今、旅行商品をつくって、国からお金をいただきながらということもあります。DMOについては、これから足尾についても旅行商品をつくるということは、市からもお願いして、どんどん造成していただいて、旅行商品をつくって国からお金をいただきながら、仕事をしていきたいと思っております。

情報の共有というところには、足尾地域独自の情報の共有の仕方があると思いますので、これについては、もし、困ったことがあれば、市のほうで支援できるものについては、支援をさせていただくような考えではあります。以上です。

**参加者** 設計が計上されていたので、現場の声を聞いてそのようにされるのか。保育ですから健康福祉部になるのでしょうか、子供たちのことなので、子供一番で考えていただければなという要望です。

**健康福祉部長** 今、現在足尾小学校の旧公民館のところを使って、放課後児童クラブをやっているのですが、かなり老朽化しているということでございまして、認定こども園のほうに、ある程度スペースがあるという状況でございますので、そこを使えないかということがございまして、今年度、そこを改修する設計を行います。これから設計をするところでございますので、具体的に保護者の方と協議をしていくことになるかと思いますが、まだ、具体的には予定というのは決まっていない部分でございます。

**参加者** 要するに、市のほうで考えてこの計画を立てたのですよね。だから、要望として現場の声を聞いて、認定こども園でいいのかどうか、単に施設が健康福祉部の管轄であるからスムーズですよね。私たちは、学童保育を立ち上げた立場の親ですけれども、その当時は、校長先生が学校の空き教室とかラウンジルームを使ってやったのが最初なのです。それは学校教育だから、福祉と管轄が違うわけです。そうすると縦社会のことで、認定こども園という白羽の矢が当たったのだと、私は理解しましたが、その現場として、指導員の目は子供たちに届かなくなるわけです。

認定こども園の中だと、子供たちは思いきり遊ばせん。そうすると、学校へ行くわけです。学校を挟んで向こう側へ行くわけです。今なら、目を光らせて校庭を見ることはできますけれども、そうではないから思いました。これから進めていく中で、設計費もかかるでしょうから、税金を無駄遣いしないようにお願いしたいと思いました。

**健康福祉部長** もちろん、放課後児童クラブを整備するにあたっては、関係者の皆さんと調整をしながら進めていく話ですので、そういったご意見については、担当に話しまして、ご意見等を伺った上で、進めていきたいということにさせていただきたいと思っております。学校の施設を使えるかどうかというのは、学校側との調整ということもございまして。

**参加者** 先ほどの観光の件ですが、足尾観光ドットコムというのは、確かに私が個人で作りましたけれども、足尾にないから作りました。門前のほうでも、色々なガイドとか、まちづくりをそれぞれやっています。結局はプラットフォームにのれないで、それぞれが底辺で頑張っている状態なのです。市から、今の観光協会に補助金が入っています。そういうところでは、指摘をしていただけないのかなと思えました。無理だとして、市のほうの観光のところリンクをさせていただけますか。

この足尾の観光サイトは、かなりの情報量をのせてあります。自分のフェイスブックでかなり宣伝しているのですが、そこで、皆さんに共有してもらいたいのは、今、市長をはじめ、職員の何人かと私はフェイスブックでつながっていますけれども、皆さんもスマホがあれば、お金がかからないで自分でフェイスブックに参加できます。そうすると、市長の動き、市の動き、職員の頑張っている動きとか、観光協会とか、いろいろな情報を得ることができるので、皆さんできれば、フェイスブックへの参加を提案いたします。以上です。

**企画総務部長** ペーパーレス会議につきましては、まず、職員についてはタブレット化をして、特に庁内の会議から、実際には来年1月頃から始めたいと思っております。また、議会につきましても同様に、やはり1月からペーパーレスに向けて、今、準備を進めているという状況です。

**副市長** 観光のほうはご提言いただいたところを、内部検討させていただきますのでよろしく申し上げます。まちづくりの事業に関しては、足尾地域は、昨年も申し上げたかもしれませんが、自分たちでできることという発想力、それがリアルな内容で、地域に効果的なのかなと思えます。例えばまちなか写真館にしても、モデル的というよりも先行的な事例としていい事業だなと思えます。

ない物ねだりではなくて、あるもの活かしという考え方が、まさに一番進んでいるのではないかと思います。別に持ち上げるわけでも何でもなくて、そういうふうに感じていますので、今後とも、そういった発想を活かしていただければと思っております。よろしくお願ひしたいと思えます。

**市長** いろいろなお話を聞かせていただきまして、本当にありがとうございました。観光が手薄になっているのではないかとおっしゃった人がいたということですが、その人は、たぶん手薄になっているとしたいのです。何をやっても、手薄だと思いたい人はいるのであって、決してそんなことはありません。観光経済部長が直ぐにNHKに交渉するというのは、今まではそういうのがなかったと思えます。

私は観光に関して、行政がやることには限界があると思っております。今、観光客のお客様がいっぱい来てくれているのは、市もやることはやっていますが、例えばJTBや東武トップツアーとか、旅行代理店の人たちとか、東武鉄道やJR、ホテルや旅館の人とか皆で力を合わせて、自らも商売ですから、東武鉄道も電車に人をいっぱい乗せなくてはだめだし、ホテルや旅館にもお客さんにいっぱい来てもらわなくてはだめで、生活がかかっているのです、みんな本気になってやっているのです、それだけ来てくれているのだと思えます。そこに行政は、行政ができることを少し得意な分野でお手伝いをしていく。国や県、そういう関係者の皆さんと力を合わせてやっていく。入湯税が3億8,000万円入っていますから、そのうち2億円を観光協会のほうにお渡しをして、その中でやってもらっています。観光客をどんどん増やす、観光を強くするためには、観光協会を強くするのが1番近道だと思っております、行政が予算をいっぱい取っているからといって、お客さんは増えないと思えます。手薄になっていると言った人が、何

を根拠に言っているのかわかりませんが、もし、今度そういうことをおっしゃる人がいたら、そんなことはないと言っていたらと思えますし、観光産業を決してないがしろにする気はないですし、しっかりと頑張りたいと思っています。市役所もそういうつもりで、部長を筆頭に連携して今後もやっていきたいと思っていますので、ぜひ、そのようにお伝え願えればと思います。

そういう意味でも、冒頭にお話しましたが、宿泊税等ができたときには、それは全部、観光に使います。例えば、鬼怒川の廃ホテルを壊せるとなったときには、その財源にも充てられるということになります。今のままだと、財源はないのです。民間の経営者が放り投げて古くなったホテルを、皆さんの真水の税金で壊すということは、やはり理にかなわないと思うのです。そういう意味では、その財源もない、補助率を上げてもらうことを国に働きかけようと思っていますが、地権者の権利関係が全部きれいになったと仮定をしても、今、財源はないわけです。その財源をつくらないと壊したくても、壊せないという現状もありますから、真剣に取り組んでいますので、もし、またおっしゃる人がいたら、そのようにお伝え願えればと思います。

先ほどのお話の中で、財政が大変だから、ばたばた事業を切っていくようなイメージがあるとすれば、それは誤解でして、これを見ていただければ、必要なところには、必要な予算を付けていますし、予算の組み替えの中で、1つだけ例を話しますと、5,000万円ほどの事業をやめました。ウルトラマラソンというマラソンをやっていました。あれは、段取りをするのに市のスポーツ振興課の職員が、各自治会をまわってボランティアを1,200人集めるのです。走る人は1,500人ぐらい来てくれて、登録料を22,000円取って、4,000万円近くお金を集めて、それでも足りないということで、補助金として皆さんの税金から570万円を去年は出したのです。市に何が残っているかということ、東京の業者が日光に来て、日光のブランドを使って、1,500人のうちの3分の1くらいは泊ってくれたかもしれませんが、東京の業者が東京から全材料を仕入れて、ボランティアは日光市民がやって、上がった利益はそっくり持っていってしまう。原価はいくらなのだと。別にそれがなくても、市は何も困らないのです。そこに振り回される職員の人件費はいくらか、何が残っているのか考えると、やはりやめるべきです。それは職員からも声が上がってきました。実行委員会は解散をしたので、市もやりませんと言ってやめました。

片や一方で、日光国立公園マウンテンランニング大会といって、二社一寺をスタートして、霧降の山の中を走るレースがあります。これは佐々木君という三依出身の人が声をかけてスタートしました。この間、スポーツ庁官賞をとったのです。市は何もお手伝いしていません。私がいさつに行っているだけです。けども、自力でやって1,500人集めているのです。企業の協賛をとって、二社一寺の協力ももらっています。今度、距離を増やしたいとか、環境省と交渉したいということであれば、市も応援してやっていこうと思っていますけども、自力でやって、同じ1,500人来ているのです。1人7,000円の参加料を取って、あとは協賛金を集めてやっているのです。その事業は、イベントを成功させようと言って、職員も関係をして、みんなボランティアで関わって盛り上げようということで、人の輪が地域に残っていて、また、次なる可能性も見えてくると思います。そういう意味で、しっかりとみなさんの税金を使っているお金が、本当に必要かどうかというのは、職員には現場、現場で見極めてくれと。

大切なのは、皆さんが少しおかしいとか、疑問だなと思った声が、きちんと循環する市役所の中の雰囲気をつくらないといけないと思います。それを、特に職員にはいつも言っております。例年どおり予算を上げてくれれば楽なのですが、足りないところは足りない、無駄なものは無駄ということ、職員が見極めてほしいということもお願いしています。そういう意味で、将来につけを残さないことが大

切なのですが、今現在、日光で8万人の市民の皆様が生きているわけで、その生きている皆様も、困らないようにしていくのも、行政の一番重要な役割ですから、本当に必要なところには予算を付ける、無駄なものは削る、それを見極めてやっていかなければならないと思います。

何でも削ってしまうとイメージを持っている方がいらっしゃるとしたら、それを払拭していただいて、生活に必要なもの、医療や介護、福祉、身近な生活の足だったり、身近なものは極力削らないで、足りないところには拡充をする、足りないところに拡充するにも議論を図ることも必要だし、無駄なものもやめていくこともしないとならないと思います。

前市長は合併して12年間、いろいろな案件をやってきて、造るだけ造ってという人もいるかもしれませんが、造ることは時代的に使命だったと思います。この先大変だと言いつらいと思います。私も言えないと思います。今の現状を、議会や市民にも正直にお伝えして、こうやっていけばなんとかやっていけるから、みんなで頑張ってやっていきましょうというのが、私の役割だと思います。ですから、イメージ的にそういうイメージで伝わっているかもしれませんが、地域や生活に関することは極力削らず、どうなのかなという事業もたくさんありますから、地域住民の輪をつくるとか、地域のにぎやかさ、地域のまとまりをつくっていくというところには、補助を継続してやっていきたいと思っております。今日は、いろいろな話を聞いて良かったです。自治会に関しては、担当の部がありますし、健康福祉部もありますし、今後、財源に限られる中で、我々でこの日光市をつくっているわけですから、協働で取り組めるところは意見交換をしながら、今後とも努力をしていきたいと思っておりますので、何とぞよろしくお願い致します。